

日本技術者教育認定機構（JABEE）認定
農業工学及び関連のエンジニアリング分野対応

地域環境工学プログラム
履修案内

2020年4月

（2020年度入学者用）

日本大学生物資源科学部
生物環境工学科

目 次

1	地域環境工学プログラムとは	・・・	1
2	農業工学とは	・・・	2
3	日本技術者教育認定機構（JABEE）	・・・	2
4	資格との関係	・・・	3
5	教育目的・受入方針と学習・教育到達目標	・・・	4
5. 1	教育目的と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	・・・	4
5. 2	学習・教育到達目標	・・・	5
6	プログラム履修から修了までの流れ	・・・	12
7	プログラム履修の決定について	・・・	13
8	プログラム修了のための必要科目及び必要単位数	・・・	14
9	コースの移籍について	・・・	17
10	問い合わせ	・・・	18

1 地域環境工学プログラムとは

日本大学生物資源科学部生物環境工学科では、「地域環境工学コース」を設定しています。このコースで実施されているプログラムが「地域環境工学プログラム」です。

本プログラムでは、学科の専門分野のひとつである農業工学の技術者教育が行われます。技術者（Engineer）とは、「技術業に携わる専門職業人（技術業：数理科学，自然科学及び人工科学の知識を駆使し，社会や環境に対する影響を予見しながら資源と自然力を経済的に活用し，人類の利益と安全に貢献するハード・ソフトの人工物やシステムを研究・開発・製造・運用・維持する専門職業）[JABEE]」と定義されており，「知識をその能力の中核におくものを指し，スキルを能力の中核とする技能者（Technician）を含まない [JABEE]」とされています。

本プログラムは，日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education：JABEE）によって，国際的に承認された技術者教育プログラムとして認定されています。本プログラムを修了すると，JABEE 認定の技術者教育プログラムの修了者として社会的・国際的に認知されます。さらに，JABEE 認定の技術者教育認定プログラムの修了者は，日本の技術者資格である「技術士」の一次試験が免除され，「修習技術者」となることができます。その後，所定の実務経験を得た後に，二次試験を受け合格し登録すると技術士になれます。将来，技術者として活躍したい場合には，本プログラムを修了することが有利になります。農業工学分野だけでなく，環境関連分野，建設・都市工学関連分野などの技術者としての就職を考えている人には，本プログラムの履修を勧めます。

本プログラムを履修するには，3年次より「地域環境工学コース」に進級する必要があります。本プログラムは比較的難易度が高いものとなっています。これは，技術者としての知識，技術，人間性を高めてもらわなければならないからです。そのため，コース進級のための条件を設けています。条件をクリアして3年次より「地域環境工学コース」に進級し，本プログラムを修了して，社会的・国際的に幅広く活躍する技術者となる可能性に是非チャレンジして下さい。多くの学生がチャレンジすることを期待しています。

2 農業工学とは

本プログラムの専門分野である農業工学は、農業生産に関する基盤，作業，機械化，環境改善等の工学技術を研究する学問であり、「土と水」，「建築物，環境の改善」，「作業機械」，「電力とエネルギー」，「生産管理，労働科学」，「農産物処理」等の技術分野に分類されます（日本農業工学会ホームページ [<http://www.jaicabe.org/>]）。

また，農業工学の一分野で，本プログラムの主要分野である農業農村工学は、農業の生産性向上と農村の生活環境の整備、農業農村にかかわる中小都市も含めた地域全体の持続的発展を図るため、循環を基調とした社会を構築し、水・土などの地域資源を，人と自然の調和，環境への配慮を重視して合理的に管理する科学技術です（農業農村工学会：学会について [<http://www.jsidre.or.jp/guide/>]）。

この分野の関連する技術者は、技術系公務員（国家，地方），建設会社，建設コンサルタント会社などで活躍しています。

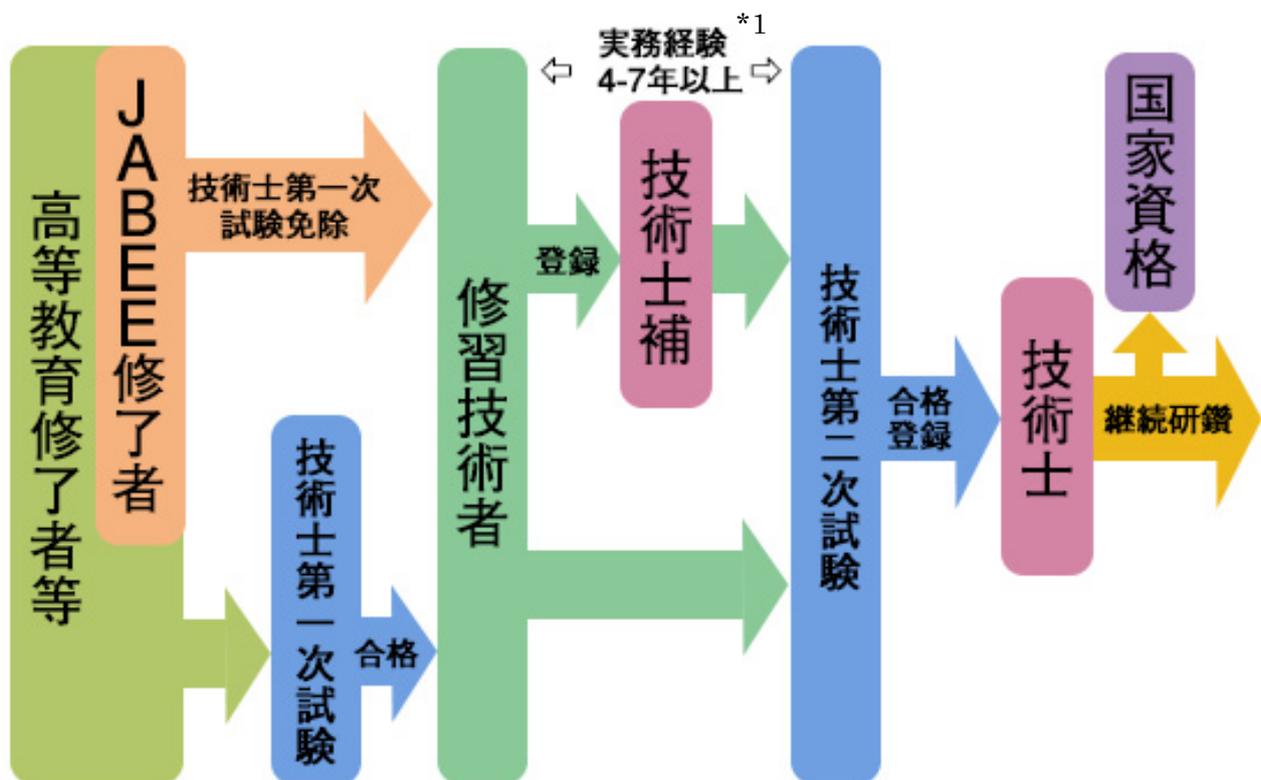
3 日本技術者教育認定機構（JABEE）

日本技術者教育認定機構（英語名：Japan Accreditation Board for Engineering Education，略称：JABEE）とは，1999年11月19日に発足した非政府団体で，日本の技術者教育水準を保証し，技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの認定審査を行うなどの活動をしています。世界各国には技術者教育のレベルを保証する団体があり，日本でその役割を担っているのが JABEE です。JABEE は，各国の団体が認定した技術者教育認定プログラムの実質的同等性を相互承認したことを意味するワシントンアコード（Washington Accord，略称 WA）に正式加盟しています。このことは，JABEE 認定の技術者教育認定プログラムの修了生が WA 加盟国認定の同一分野の技術者教育認定プログラムの修了生と同じ技術者教育を受けた者として承認されることを意味します。

4 資格との関係

JABEE 認定の本プログラムを修了することにより、技術士の第一次試験が免除され、修習技術者となります。また、就職後に就職先での指導技術士の名を添えて公益社団法人 日本技術士会に申請すると、技術士補として登録されます。図 1 に JABEE 認定プログラムと技術士制度との関係を示します。技術士とは、科学や技術の能力を持ち、その能力を活かして社会のために働く技術者の中で、国の試験を受けて合格した人が使うことができる名称です(日本技術士会:技術士って? [https://www.engineer.or.jp/c_cmt/kshien/topics/002/attached/attach_2797_1.pdf])。

技術士資格とは別に、JABEE 認定の技術者教育認定プログラムを修了していること自体を評価する動きもあります。



参考資料：一般社団法人 日本技術者教育認定機構 (JABEE) ; 「技術士への道」 2020 年 4 月
(https://jabee.org/about_jabee/gijutsushi)

*1 大学院修士課程または博士課程に在籍した者は、2年間を限度としてこの期間を実務経験として参入することができる。

図 1 JABEE 認定プログラムと技術士制度との関係

5 教育目的・受入方針と学習・教育到達目標

以下に、学部、学科、本プログラムを実施している地域環境工学コースの教育目的と受入方針を示します。

5.1 教育目的と入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

生物資源科学部

今日、世界は食料問題や環境問題をはじめ、多くの解決すべき問題を抱えています。生物資源科学部は、生産・利用科学、生命科学、環境科学の3分野を基軸として、自然や生物との共生を図り、人間活動を重視した教育研究を行っています。対象とする生物資源は、これらの問題を解決し、持続可能な社会を実現させる上で必須です。これらの教育と研究を通して、フィールドから分子レベルに至る科学的知識と優れた技術を備えた人間性豊かな人材を養成します。

生物環境工学科

生物環境工学科では、自然のシステムを活用し、生物資源を適切に利用した生産、生活環境の創造とその応用技術を多面的に学んで社会に役立てる人物を育成すること、具体的には、水・土環境や地域環境、環境配慮型土木的技術、生態系と調和した計画・設計を可能とする環境配慮型建築などを創造できる人物やバイオマスエネルギー開発などにおける生物資源活用を工学的な観点から創造できる人物を育成することを教育目的とし、本教育を要望する学生を求めています。

地域環境工学コース

生物環境工学科の地域環境工学コースでは、学科入学者の中で、特に生物、人間活動および環境の調和を広い視野から判断し、技術者倫理と自己の責任に基づき、地域環境工学プログラムに従って修得した地域環境工学技術を用いて、わが国のみならず海外の社会の発展にも貢献できる人物を育成することを教育目的とし、本教育を意欲的に要望する学生を求めています。

5.2 学習・教育到達目標

以下に、教育目的を達成するための学習・教育到達目標と各目標到達に必要な科目を示します。

(A) 生物資源科学が目指す「地球環境の保全」、「持続的な世界」、「自然と共存した人間活動」を実現するための基礎となる知識を修得し、また、それらを応用できる能力を修得する。

- (1) 生物資源科学の基礎となる知識とそれを応用できる能力を身に付ける。
- (2) 「地球環境の保全」に関わる環境科学の基礎知識を身に付ける。
- (3) 「持続的な世界」の実現に関わる生産・利用科学の基礎知識を身に付ける。
- (4) 「自然と共存した人間活動」の実現に関わる生命科学の基礎知識を身に付ける。

目標 (A) 到達のために修得が必要な科目

	1年	2年	3年	4年
(1)	教養教育科目 (理系)		ベクトル解析	
	解析学	応用数学		
		数理情報科学		
	基礎力学	技術者の物理学		
	教養教育科目 (文系)			
	英語 I	英語 III	専門英語	
英語 II	英語 IV			
	環境情報工学			
	環境情報工学演習			
(2)	地域環境保全学概論	環境化学		
	基礎生態学	大気環境科学		
(3)	生物生産原論	バイオメカトロニクス		
	生物環境調節工学	農業施設学		
(4)	生物工学			

(B) 地域・地球環境の構成要素である土・水の理工学的利活用に関する知識とその応用技術を修得し、また、地域・地球環境のモニタリングおよび修復に関する知識とその応用技術を修得する。

- (1) 土の特性に関する基礎知識を養う。土の生成・種類・構造などの土環境の特性に関する科学的知識とその応用技術を身に付ける。
- (2) 水の特性に関する基礎知識を養う。地球における水の生成・循環・分布，理化学的特性等の水環境の特性に関する科学的知識とその応用技術を身に付ける。
- (3) 地形・水系の測量の技術や環境分析技術等の環境モニタリングとその応用に関する知識と技術を身に付ける。

目標 (B) 到達のために修得が必要な科目

	1年	2年	3年	4年
(1)	土環境学	農地環境整備学 土質力学	土環境工学実験	
(2)	地域環境水文学	水資源環境工学 基礎水理学 応用水理学	灌漑排水環境学 水環境工学実験	
(3)		測量学Ⅰ 測量学Ⅱ 測量学実習Ⅰ	測量学実習Ⅱ	

(C) 生物資源の持続的生産と循環型社会の実現に関わる知識とその応用技術を修得する。

C-1 地域における生物資源生産基盤・生活基盤を整備・開発・保全するための知識と技術を修得する。

- (1) 土木材料に関する知識とその利用方法を学ぶ。
- (2) 土木材料を活用した環境配慮型の整備・保全手法について学ぶ。

C-2 地域環境計画に関わる知識と技術を修得する。

- (1) 循環型社会やエコロジカルな農村・都市を構築するための知識とそれらを実現するための手法を修得する。
- (2) 地域環境を総合的に計画・デザインする能力を修得する。

目標 (C) 到達のために修得が必要な科目

	1年	2年	3年	4年
共通	社会基盤施設工学	構造力学Ⅰ		
	概論	構造力学Ⅱ		
	農村整備計画学			
	図学			
C-1 (1)		コンクリート工学	土木材料 土質・材料工学実験	
C-1 (2)			社会基盤施設工学各論 土木設計製図	
C-2 (1)			地域環境保全学各論 生物地域環境計画学	地域環境 GIS 演習
C-2 (2)		環境建築学 建築設計製図Ⅰ		

(D) 講義、演習、実験、実習で修得した知識、技術、推察力、洞察力、表現力、発表力を総合的に活用して、多様な課題を広い視野で解決しながら、開発・研究が進められる能力を修得する。

- (1) 知識を活用して演習や研究活動に関わることで、論理的に考え、実行し、それを表現する総合的な能力を身に付ける。
- (2) コミュニケーション能力の基礎を演習・実験・実習によって身に付けた上で、生物環境工学演習や卒業研究における発表や質疑応答をくり返すことによって、自分の意見を伝えるとともに他人の意見を理解するコミュニケーション能力を身に付ける。

目標 (D) 到達のために修得が必要な科目

	1年	2年	3年	4年
共通	フレッシュマンセミナー		生物環境工学演習 I	生物環境工学演習 II
	エコロジカルデザイン演習			卒業研究

(E) 関連する公共団体，企業等におけるインターンシップを通じて，学部で修得した知識と技術の実際面への展開を理解するとともに，倫理と責任を尊ぶ技術者としての社会的能力を修得する。

目標 (E) 到達のために修得が必要な科目

	1年	2年	3年	4年
			生物環境工学 インターンシップ	技術者倫理

以上の (A) ~ (E) の学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れは表 1 に示すとおりです。

表1(1) 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育到達目標		授業科目名							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A) 基礎	(1) 生物資源科学	教養教育科目の自然系、総合系(理系)科目から4科目以上							
		解析学	基礎力学	応用数学	環境情報工学 環境情報工学演習	数理情報科学 技術者の物理学	ベクトル解析		
		教養教育科目の言語系、人文・社会系、健康・スポーツ系、総合系(文系)科目から4科目以上							
		英語 I	英語 II	英語 III	英語 IV	専門英語			
	(2) 環境科学	地域環境 保全学概論		大気環境科学	環境化学				
		専門教育科目の選択科目※							
	(3) 生産・利用科学	生物生産原論	生物環境 調節工学	農業施設学	バイオ メカトロニクス				
		専門教育科目の選択科目※							
	(4) 生命科学	基礎生態学	生物工学						
専門教育科目の選択科目※									
(B) 土・水・地形	(1) 土	土環境学		土質力学	農地環境整備学	土環境工学実験			
	(2) 水	地域環境水文学		水資源環境工学	基礎水理学	応用水理学	灌漑排水環境学 水環境工学実験		
	(3) 地形			測量学 I	測量学 II	測量学実習 II			
				測量学実習 I					

表1(2) 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育到達目標		授 業 科 目 名							
		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
(C-1) 基盤分野	(1) 土木材料			構造力学Ⅰ コンクリート工学	構造力学Ⅱ	土質・材料 工学実験	土木材料		
	(2) 環境配慮	農村整備計画学	社会基盤施設 工学概論 図学			土木設計製図	社会基盤施設 工学各論		
(C-2) 環境分野	(1) エコロジカル の知識	農村整備計画学	社会基盤施設 工学概論			地域環境 保全学各論	生物地域環境 計画学	地域環境 GIS 演習	
	(2) 計画・ デザイン		図学	構造力学Ⅰ	構造力学Ⅱ 環境建築学				
(D) 演習・研究・コミ ュニケーション	フレッシュマン セミナー		エコロジカル デザイン演習			生物環境 工学演習Ⅰ		卒業研究	生物環境 工学演習Ⅱ
(E) 倫理						生物環境工学インターンシップ	技術者倫理		

※ その他、JABEE 指定科目以外の専門教育科目の選択科目から5単位以上を修得する必要がある。

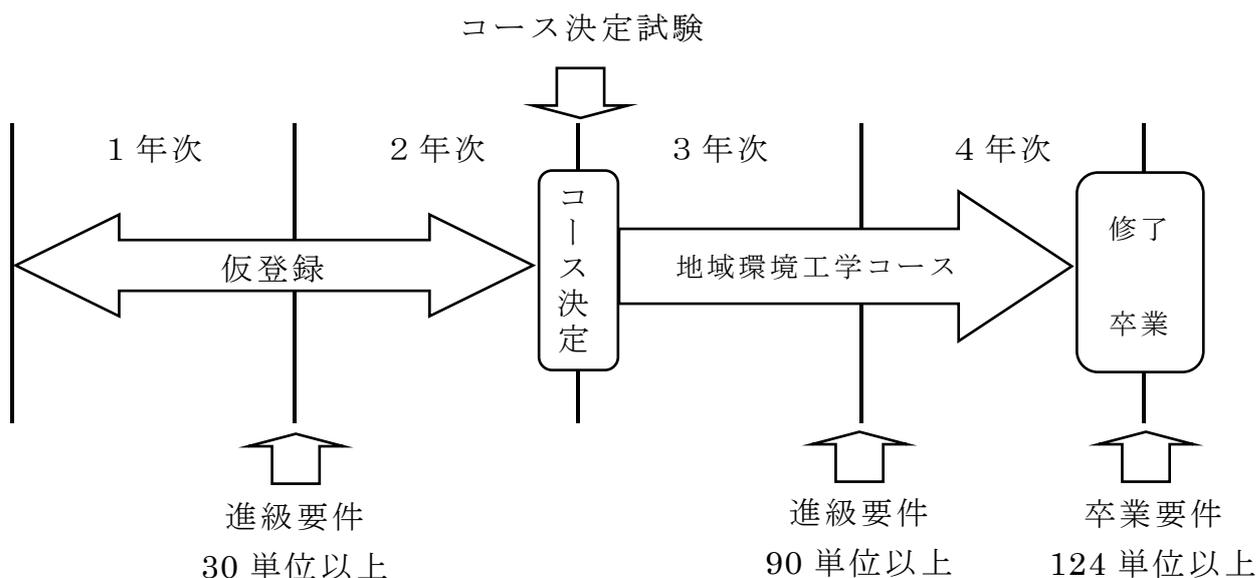
※ 各学年の開講学期（前期・後期）は変更となる場合があります。

6 プログラム履修から修了までの流れ

本プログラムを履修するには、地域環境工学コースへ進級する必要があります。本プログラムの履修希望者は、原則として2年次終了時までには仮登録をして下さい。3年次初めに地域環境工学コース決定試験を行います。

1年次学生にとっては、3年次初めでの本プログラムの履修決定（地域環境工学コースへの進級）までに時間的余裕があるように思われますが、1年次から本プログラム必修科目が組み込まれているため、本プログラム履修希望の学生は本プログラムの履修条件を満たすように十分な注意が必要です。

地域環境工学コースに進級した後も、本プログラム必修科目を全て履修し、学科選択科目から5単位以上を修得して卒業要件を満たすとともに、地域環境工学コースでの卒業研究発表を行い、講評を得ることで、地域環境工学プログラムの修了が認められます。この修了生が、JABEE認定の技術者教育認定プログラムの修了者として承認されることとなります。



※詳細は項目
「7 プログラム
修了のための
必要科目及び
必要単位数」を
参照

図 2 地域環境工学プログラム修了までの流れ

7 プログラム履修の決定について

本プログラムの履修が認められるには、以下の条件を満たし、地域環境工学コースへ進級する必要があります。

本プログラム必修科目及びそれらの単位数は表 3 に示すとおりです。地域環境工学コースへ進級するには、下記の事項を全て満たし、3 年次初めに実施する地域環境工学コース決定試験に合格することが条件となります。

- 1) 2 年次までに履修した全科目の GPA 得点が 2.30 以上
- 2) 2 年次までに修得した本プログラム必修科目が 25 科目以上
- 3) 次の科目を修得していること

エコロジカルデザイン演習、環境情報工学演習、測量学実習 I

※なお、教職課程などのやむをえない理由により、上記「3)」の演習、実習を履修できなかった場合には担当者（「10 問い合わせ」参照）に相談すること。

なお、ここでの本プログラム必修科目の 25 科目以上とは、表 3 の「必修科目＋環境分野科目」あるいは「必修科目＋基盤分野科目」のどちらかの分野での必修科目の修得単位数のことです。上述の条件をクリアすれば、地域環境工学コース決定試験を受けることができます。

地域環境工学コース決定試験

2 年次終了時までには上述の 1), 2) および 3) の事項を全て満たすと、3 年次初めに実施の地域環境工学コース決定試験を受けることができます。この試験は 2 年次までの学習・教育科目の達成度を評価するものであり、合格すると地域環境工学コースへ進級することができます。

この試験の内容は以下に示すとおりであり、それぞれの達成度を口述試験および提出課題によって評価します。提出課題については、あらかじめ提示する課題に対して回答したものを、口述試験の前までに提出してもらいます。

- | | |
|------------------|---------------------|
| (1) 総合教育科目の理解度 | (2) 土・水・大気に関わる理解度 |
| (3) 環境分野についての理解度 | (4) 基盤分野についての理解度 |
| (5) 演習および実習の達成度 | (6) コミュニケーション能力と応用力 |

試験における評価は A~D の 4 段階とし、D 評価が 1 項目でもあった場合、不合格となります。

8 プログラム修了のための必要科目及び必要単位数

地域環境工学コースに進級して本プログラムを修了するには、下記の卒業要件のための単位数を全て修得するとともに、地域環境コースでの卒業研究発表を行い、講評を得るという修了要件も満たす（「5 プログラム履修から修了までの流れ」参照）必要があります。

(1) 教養教育科目

卒業要件のための教養教育科目の単位数としては、学科の必修科目 13 単位及び選択科目 17 単位以上の合計 30 単位以上の修得が必要です。表 2 に教養教育科目の一覧を示します。

ただし、本プログラムを修了するには、合計 30 単位以上となる教養教育科目のうち、必修科目の英語及びスポーツ実技 I を除く言語系，人文・社会科学系，健康・スポーツ系，総合系（文系）科目より 4 科目以上，必修科目の解析学，基礎力学を除く自然系，総合系（理系）科目より 4 科目以上履修して，各単位を修得する必要があります。

(2) 専門教育科目

卒業要件のための専門教育科目の単位数としては、学科必修科目 31 単位（15 科目）及び選択科目 63 単位以上の合計 94 単位以上の修得が必要です。

ただし、本プログラムを修了するには、表 3 に示した本プログラム必修科目（42 科目）と、環境分野科目（5 科目）または基盤分野科目（5 科目）を全て履修し、各単位を修得する必要があります（表 3 の一覧参照）。

また、本プログラムの修了に必要な科目（80 単位）と、環境分野科目（9 単位）または基盤分野科目（9 単位）の全てを履修し、各単位を修得しても卒業要件の単位数に満たないため、本プログラム必修科目に加え、学科選択科目から 5 単位以上の修得が必要となることに留意してください。

表 2 教養教育科目一覧

文系科目

	言語系科目	人文・社会系科目	健康・スポーツ系科目	総合系科目	科目数 (単位数)
必修科目	※ 英語 I (2) ※ 英語 II (2) ※ 英語 III (2) ※ 英語 IV (2)		※ スポーツ実技 I (1)		5 科目 (9 単位)
選択科目	初級ドイツ語文法 (2) 初級ドイツ語購読 (2) 初級ドイツ語会話 (2) 中級ドイツ語購読 (2) 検定ドイツ語 (2) 初級中国語文法 (2) 初級中国語会話 (2) 中級中国語文法 (1) 中級中国語会話 (1) 初級フランス語文法 (2) 初級フランス語会話 (2) 初級スペイン語文法 (2) 初級スペイン語会話 (2) 初級韓国語文法 (2) 初級韓国語会話 (2) 日本語 I (2) 日本語 II (2)	日本語表現の基礎 (2) 日本の文学 (2) 哲学入門 (2) 哲学の現在 (2) 倫理学入門 (2) 倫理学の現在 (2) 心理学入門 (2) 行動心理学 (2) 個性の心理学 (2) 文化人類学入門 (2) 環境の文化人類学 (2) 比較文化論 (2) 比較芸術論 (2) 法学入門 (2) 日本国憲法 (2) 政治学入門 (2) 政治と現代社会 (2) 経済学入門 (2) 経済と現代社会 (2) 社会学入門 (2) 社会学の現在 (2) 現代社会と福祉 (2) 歴史学入門 (2) 歴史と現代社会 (2) 地理学入門 (2) 地理学の現在 (2)	スポーツ実技 II (1) スポーツ実技 III (1) スポーツ実技 IV (1) スポーツ科学 (2)	生命倫理 (2) ボランティア論 (1) 教養講座 (2)	4 科目以上 履修・修得

理系科目

	自然系科目	総合系科目		科目数 (単位数)
科目必修	※ 解析学 (2) ※ 基礎力学 (2)			2 科目 (4 単位)
選択科目	統計学入門 (2) 推計学入門 (2) 線形代数 (2) 物理学入門 (2) 物理学演習 (1) 基礎生物学 (2) 総合生物学 (2) 生物学実験 (1) 基礎化学 (2) 化学特論 (2) 化学実験 (1) 基礎地球科学 (2) 総合地球科学 (2)	アルゴリズム入門 (1) ネットワーク入門 (1) 情報科学 (2) 科学史 (2) 科学技術と社会 (2) 地球環境を考える (2)		4 科目以上 履修・修得

(備考)

卒業に必要な教養教育科目の単位数は 30 単位(不足分は選択科目より履修すること)。※は学科必修科目。()内は各科目の単位数。

表 3 地域環境工学プログラム・専門教育科目一覧

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科目数 (単位数)
必修科目		※ 生物生産原論 (2)	● ※ 農業施設学 (2)	ベクトル解析 (2)	※ 卒業研究 (6)	42 科目 (80 単位)
		※ 地域環境保全学概論 (2)	環境化学 (2)	△ 灌漑排水環境学 (2)	※ 生物環境工学演習Ⅱ (1)	
必修科目		※ 基礎生態学 (2)	大気環境科学 (2)	水環境工学実験 (1)	● 技術者倫理 (2)	
		※ 生物環境調節工学 (2)	※ バイオメカトロニクス (2)	土環境工学実験 (1)		
必修科目		生物学 (2)	環境情報工学 (2)	△ 測量学実習Ⅱ (1)		
		△ 地域環境水文学 (2)	△ 基礎水理学 (2)	専門英語 (2)		
必修科目		△ 土環境学 (2)	△ 応用水理学 (2)	※ 生物環境工学演習Ⅰ (1)		
		※ 社会基盤施設工学概論 (2)	● ※ 測量学Ⅰ (2)	生物環境工学インターンシップ (2)		
必修科目		● △ ※ 農村整備計画学 (2)	● △ 測量学Ⅱ (2)			
		● 図学 (2)	● △ 構造力学Ⅰ (2)			
必修科目		● エコロジカルデザイン演習 (1)	● △ 構造力学Ⅱ (2)			
		※ フレッシュマンセミナー (1)	● △ 土質力学 (2)			
必修科目			△ 応用数学 (2)			
			技術者の物理学 (2)			
必修科目			△ 農地環境整備学 (2)			
			△ 数理情報科学 (2)			
必修科目			※ 水資源環境工学 (2)			
			● △ ※ 測量学実習Ⅰ (2)			
必修科目			環境情報工学演習 (1)			
			● コンクリート工学 (2)	土木設計製図 (2)		
分野必修科目	基盤			社会基盤施設工学各論 (2)		5 科目 (9 単位)
	環境			△ 土木材料 (2)		
分野必修科目	基盤			土質・材料工学実験 (1)		
	環境		● 建築設計製図Ⅰ (2)	地域環境保全学各論 (2)	地域環境 GIS 演習 (1)	
分野必修科目	環境		● 環境建築学 (2)	● 生物地域環境計画学 (2)		5 科目 (9 単位)
		● 建築文化史 (2)	● 建築構造学 (2)	● 建築設計製図Ⅱ (2)	● CAD 製図 (1)	
選択科目		● 生物生産システム工学 (2)	● 環境空調工学 (2)	● 機械設計製図 (2)	● 建築設計製図Ⅲ (1)	
		● 環境エネルギー工学 (2)	● 環境空気工学 (2)	● リモートセンシング実習 (1)	● 建築総合設計製図 (1)	
選択科目		● 機械工学 (2)	● 動物生態・共生学 (2)	● 公害防止管理論 (2)	● 建築材料 (2)	
		● 生物資源プロセス工学 (2)	● 建築計画学 (2)	● 野生動物フィールド実習 (1)	● 建築施工 (2)	
選択科目			● 環境エネルギー工学 (2)	● 建築環境工学 (2)	● 建築法規 (2)	
			● 機械工学 (2)	● 農産物流通工学 (2)	● フィールドワーク論 (2)	
選択科目			● 動物生態・共生学 (2)	● 農業施設環境学実験 (1)	● 土木施工 (2)	
			● 生物資源プロセス工学 (2)	● 食料機械工学 (2)	● 都市計画 (2)	
選択科目				● 生物生産システム工学実験 (1)		
				● 電気・電子工学 (2)		
選択科目				● バイオメカトロニクス実習 (1)		
				● 生物環境工学特別講義 (2)		
選択科目				● 木造建築構法 (2)		
				● 海外研修 (2)		
選択科目				● バイオマスエネルギー工学 (2)		
科目数 (単位数)	必修科目	12 科目 (22 単位)	必修科目 19 科目 (37 単位)	必修科目 8 科目 (12 単位)	必修科目 3 科目 (9 単位)	
	基盤	0 科目 (0 単位)	基盤 1 科目 (2 単位)	基盤 4 科目 (7 単位)	基盤 0 科目 (0 単位)	
科目数 (単位数)	環境	0 科目 (0 単位)	環境 2 科目 (4 単位)	環境 2 科目 (4 単位)	環境 1 科目 (1 単位)	

(備考)

卒業に必要な専門科目の単位数は 94 単位(不足分は選択科目より履修すること)。※は学科必修科目。

●は「一級、二級・木造建築士」の受験資格に関連する科目、△は「測量士補」取得に必要な科目。

()内は各科目の単位数。

9 コースの移籍について

地域環境工学コースから他のコース（環境計画コースまたは生産管理コース）への移籍は、3年次後期以降に移籍希望理由書を提出し、プログラム責任者および学級担任などによる面接を実施し、地域環境工学プログラム委員会で検討を行い、移籍が妥当と認められた場合のみ可能です。

なお、申請したからといって必ずしも承認されるわけではありません。また、他のコースに移籍してから地域環境工学コースへの再移籍はできません。移籍の申請は、よく考えた上で行うようにしてください。

10 問い合わせ

本プログラムについて問い合わせたいことがある場合は、次の担当者に質問してください。

担当者：

串田 圭司 教授（プログラム責任者）
地球環境・資源リモートセンシング研究室（7号館1階）
e-mail: kushida.keiji@nihon-u.ac.jp

長坂 貞郎 教授（プログラム委員長）
水資源環境工学研究室（7号館2階）
e-mail: nagasaka.sadao@nihon-u.ac.jp

笹田 勝寛 准教授（教育評価小委員長）
地域環境保全学研究室（7号館1階）
e-mail: sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp

栗原 伸治 教授（教育改善小委員長）
建築・地域共生デザイン研究室（7号館3階）
e-mail: kurihara.shinji@nihon-u.ac.jp

事務連絡：

中 嶋 綾 香 実習助手
池 田 真有花 実習助手
生物環境工学科 学科事務室（7号館3階）
電話／FAX 0466-84-3770
e-mail brs.bae@nihon-u.ac.jp